

もみ殻発酵分解技術普及へ

つくば

NPO法人化を記念、28日研究会

つくば市のバイオマスもみ殻研究会（藤田哲史理事長）は2006年1月に発足以来取り組んできた、もみ殻の発酵分解技術をさらに広めるため、NPO法人化した。このほど、同市東2丁目のギャラリーGEN奥にゲストハウス「とんとん亭」が完成、28日には、法人化を記念した研究会を開催する。藤田さんは「任意団体の活動では社会的責任、信用、経済的契約などに限界があった。法人化を契機に、さらに、発酵分解されたもみ殻による土作りを広める活動に取り組みたい」と意欲を燃やしている。

（園部高秀）

ゲストハウスもオープン

もみ殻は昔から篤農家によって、さまざまな工夫の下に活用されてきた。植物繊維や可溶性ケイ酸が優れた土壌改良剤になることを知っていたためという。しかし、もみ殻は硬いので発酵しないというのが先入観

になっていて、普及しなかった。そのため、焼却して灰にして農地に散布するなどしてきた。

そこで、藤田さんは茨城大農学部などと協力して、もみ殻を20日間で発酵分解する技術を開発した。もみ

殻が発酵もみ殻になると、植物繊維リグニン・セルロースが分解し、微生物が繁殖しやすくなったり、可溶性ケイ酸が働き、病害虫に耐性が向上したり、耐倒伏



NPO法人化を契機に、発酵もみ殻のさらなる普及に決意を込める藤田さん。同市東2丁目のゲストハウス「とんとん亭」前

性が向上するなどの特性がみられるとしている。

藤田さんは「有機農業に取り組みにしても、まずは土壌改良が必要。発酵もみ殻を使うことで、微生物の活動が豊富になり、地力が改善される。そこで栽培される作物はまったく以前とは違うものになる」と、発酵もみ殻を使うことは有機農業の基本にもなると訴える。

ゲストハウス「とんとん亭」では、6次産業化、農商工連携、発酵もみ殻を使った農業など、興味のある人なら何でも歓迎。現在、来訪者には発酵もみ殻を使ったタマネギをプレゼントしている。

第10回つくばバイオマスもみ殻研究会（主催・つくばエンバイロフォーラム、息は28日午後1時30分から、つくば市千現2丁目のつくば研究支援センターで行われる。農水省食料産業局バイオマス循環資源課の大塚文哉氏の「バイオマス産業都市構想について」の講演のほか、藤田さんやNPO法人竹もりの里の鹿島与一理事長の事業紹介などが予定されている。